

令和4年度

柔道整復スポーツ科学科

1年

シラバス

学校法人 健生学園
東日本医療専門学校

授業科目名	人文科学			授業形態	講義	教員名	菊池 泰子			
科目区分	基礎分野	単位数	2 単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	1 年生
授業概要	「ビジネスコミュニケーション入門」									
授業の到達目標	様々な場面における、読む・聞く・話す・書くの4技能を柱に、それらを社会人としての確に実行し、ビジネスパーソンとしての言葉遣いやコミュニケーションスキルを楽しく身につける。									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 ビジネスコミュニケーション1 第2週目 ビジネスコミュニケーション2 第3週目 ビジネス場面のルール 第4週目 ビジネスマナー1 第5週目 ビジネスマナー2 第6週目 ビジネスマナー3 第7週目 ビジネスマナー4 第8週目 ビジネスマナー5 第9週目 ビジネスマナー6 第10週目 社外のマナー1 第11週目 社外のマナー2 第12週目 社外のマナー3 第13週目 社外のマナー4 第14週目 テスト 第15週目 テストFBとまとめ</p> <p style="text-align: right;">内容は多少変更あり</p> <p>(授業の方法および自学学習について) 働く人のためのビジネスマナーとルール(日本能率協会マネジメントセンター監修)を参考にしたオリジナルスライド資料を毎回配布・毎回課題アクティビティがあるのでそれに取り組み、提出して課題アクティビティ点とする。</p>									
教科書・参考書等	買うものではありません									
成績評価の方法	テスト70点・出席15点・毎回の課題15点									
実践的教育に関する経歴等	高等学校国語1種免許日本語教育能力検定試験合格、文化庁「就労者に対する日本語教師養成研修」修了									

授業科目名	社会科学			授業形態	講義	教員名	吉田 理																																		
科目区分	基礎分野	単位数	4 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	1 年生																															
授業概要	社会人として必要とされる基本の一つである「教養」について共に学ぶ。																																								
授業の到達目標	現代の社会はこれまでの常識が通用せず、かといって諸外国の例も参考にならない非常に生きづらい世と言える。このような時代に於いて、社会人として或いは一個の人間としてどのように生活を送り自己を保っていくべきなのであるか。本講義では阿部謹也『「教養」とは何か』を基に学生諸君と共に考えながらその答えを探ろうとするものである。																																								
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 ガイダンス。現代の社会とは何か</td> <td>第16週目 後期ガイダンス…プレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td>第2週目 コミュニケーションについて</td> <td>第17週目 プレゼンテーション訓練</td> </tr> <tr> <td>第3週目 自己の把握について</td> <td>第18週目 個人の教養について</td> </tr> <tr> <td>第4週目 少子高齢化について</td> <td>第19週目 プレゼン①、孤独について</td> </tr> <tr> <td>第5週目 少子高齢化について・その2</td> <td>第20週目 プレゼン②、友情について</td> </tr> <tr> <td>第6週目 情報化社会について</td> <td>第21週目 プレゼン③、恋愛について</td> </tr> <tr> <td>第7週目 国際化社会について</td> <td>第22週目 プレゼン④、防衛機制について</td> </tr> <tr> <td>第8週目 日本古来の教養について</td> <td>第23週目 プレゼン⑤、源流思想「愛」について</td> </tr> <tr> <td>第9週目 宗教について</td> <td>第24週目 プレゼン⑥、教養とは何か</td> </tr> <tr> <td>第10週目 宗教について・その2</td> <td>第25週目 プレゼン⑦、茶道と教養</td> </tr> <tr> <td>第11週目 建前と本音について</td> <td>第26週目 プレゼン⑧、葬式と世間</td> </tr> <tr> <td>第12週目 建前と本音の区別について</td> <td>第27週目 プレゼン・補、子供の教育について</td> </tr> <tr> <td>第13週目 大人になるとは何か。小テスト</td> <td>第28週目 世間からの自由。小テスト</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期末試験</td> <td>第29週目 後期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 答案返却・解説。後期授業説明</td> <td>第30週目 答案返却・解説。後期授業説明</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・板書中心の講義形式を基本とするが、しばしばアクティビティを導入する。 ・他に例のない講義内容となるので休まず集中して臨むこと。 											第1週目 ガイダンス。現代の社会とは何か	第16週目 後期ガイダンス…プレゼンテーション	第2週目 コミュニケーションについて	第17週目 プレゼンテーション訓練	第3週目 自己の把握について	第18週目 個人の教養について	第4週目 少子高齢化について	第19週目 プレゼン①、孤独について	第5週目 少子高齢化について・その2	第20週目 プレゼン②、友情について	第6週目 情報化社会について	第21週目 プレゼン③、恋愛について	第7週目 国際化社会について	第22週目 プレゼン④、防衛機制について	第8週目 日本古来の教養について	第23週目 プレゼン⑤、源流思想「愛」について	第9週目 宗教について	第24週目 プレゼン⑥、教養とは何か	第10週目 宗教について・その2	第25週目 プレゼン⑦、茶道と教養	第11週目 建前と本音について	第26週目 プレゼン⑧、葬式と世間	第12週目 建前と本音の区別について	第27週目 プレゼン・補、子供の教育について	第13週目 大人になるとは何か。小テスト	第28週目 世間からの自由。小テスト	第14週目 前期末試験	第29週目 後期末試験	第15週目 答案返却・解説。後期授業説明	第30週目 答案返却・解説。後期授業説明
第1週目 ガイダンス。現代の社会とは何か	第16週目 後期ガイダンス…プレゼンテーション																																								
第2週目 コミュニケーションについて	第17週目 プレゼンテーション訓練																																								
第3週目 自己の把握について	第18週目 個人の教養について																																								
第4週目 少子高齢化について	第19週目 プレゼン①、孤独について																																								
第5週目 少子高齢化について・その2	第20週目 プレゼン②、友情について																																								
第6週目 情報化社会について	第21週目 プレゼン③、恋愛について																																								
第7週目 国際化社会について	第22週目 プレゼン④、防衛機制について																																								
第8週目 日本古来の教養について	第23週目 プレゼン⑤、源流思想「愛」について																																								
第9週目 宗教について	第24週目 プレゼン⑥、教養とは何か																																								
第10週目 宗教について・その2	第25週目 プレゼン⑦、茶道と教養																																								
第11週目 建前と本音について	第26週目 プレゼン⑧、葬式と世間																																								
第12週目 建前と本音の区別について	第27週目 プレゼン・補、子供の教育について																																								
第13週目 大人になるとは何か。小テスト	第28週目 世間からの自由。小テスト																																								
第14週目 前期末試験	第29週目 後期末試験																																								
第15週目 答案返却・解説。後期授業説明	第30週目 答案返却・解説。後期授業説明																																								
教科書・参考書等	阿部謹也『「教養」とは何か』講談社現代新書																																								
成績評価の方法	出席状況および期末試験の点数で総合的に評価する。なお後期のプレゼンテーション発表は単位認定の基礎項目となる。																																								
実践的教育に関する経歴等	①法人事務長(9年)、②高等学校進路(進学・就職)担当責任者(5年)、③教員採用試験及び公務員採用試験予備校人物対策担当責任者(8年)、④高等学校教諭専修免許状(社会)																																								

授業科目名	保健体育			授業形態	実技	教員名	高橋 孝義			
科目区分	基礎分野	単位数	4 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	1 年生
授業概要	①健康を維持するために必要な体力増進の方法と実践 ②柔道を通じた効率的な身体の動かし方 ③心身の機能や健康などについての理解 ④武道(柔道)を通しての身体精神の鍛錬修養									
授業の到達目標	・安全に受け身が出来るようになる。 ・投げ形「手技、腰技、足技」を習得する。 ・投げ技の理論を理解し技術を身につけ約束乱取が安全に出来るようになる。									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 諸注意、柔道の起源、歴史、柔道着の着方 第2週目 回転運動、受け身(後方受け身) 第3週目 回転運動、受け身(後方受け身) 第4週目 回転運動、受け身(横) 第5週目 回転運動、受け身(横) 第6週目 回転運動、受け身(前) 第7週目 回転運動、前方回転受け身 第8週目 回転運動、前方回転受け身 第9週目 回転運動、前方回転受け身 第10週目 回転運動、前方回転受け身 第11週目 回転運動、前方回転受け身 第12週目 前方回転受け身、投げ形(手技) 第13週目 前方回転受け身、投げ形(手技) 第14週目 試験 第15週目 前方回転受け身、投げ形(手技) 第16週目 前方回転受け身、投げ形(腰技) 第17週目 前方回転受け身、投げ形(腰技) 第18週目 前方回転受け身、投げ形(腰技) 第19週目 前方回転受け身、投げ形(足技) 第20週目 前方回転受け身、投げ形(足技) 第21週目 前方回転受け身、投げ形(足技) 第22週目 投げ技(大腰)、固め技(けさ固め) 第23週目 投げ技(体落し)、固め技(上四方固め) 第24週目 投げ技(足払)、固め技(横四方固め) 第25週目 立技反復、絞め技・関節技 第26週目 立技反復、約束乱取 第27週目 立技反復、約束乱取 第28週目 立技反復、約束乱取 第29週目 試験 第30週目 紅白試合									
	(授業の方法および自学学習について) 本講義は、柔道場およびトレーニング室にて主に講義を行う。各学生は柔道着またはトレーニングを行いやすい衣服にて講義に望むこと。 ※柔道の場合は柔道着を必ず着る事。 ※仕方のない理由で見学する場合も可能な限り柔道着を着るようにすること。 講義の進行状況により、教室にて講義を行う場合もある。									
教科書・参考書等										
成績評価の方法	欠席の多いものには単位を与えない。また見学の多いものにも同様に単位を与えない。 止むを得ない理由により見学する場合は予め担当教員に証明書等を提出し、許可を得る事。 期末試験を年2回実施する(実技あるいは記述試験、またはその両方) 通年成績が120点以上となった場合のみ単位を認定する。									
実践的教育に関する経歴等	高等学校教員免許(保健体育)									

授業科目名	外国語		授業形態	講義	教員名	箱島 千賀			
科目区分	基礎分野	単位数	4 単位	時間数	60 時間	期間	通年 30 回	対象学年	1 年生
授業概要	高校までに培った英語力を生かして、英語を母国語とする人たちの文化や思想にふれ、国際社会に対応できる英語表現力を養い、あわせて日常英語や医療の現場に必要な英語の基礎を学ぶ。医療英語には難解な単語が多いので、単語の発音を重要視して、テキスト付属のCDにある単語と会話表現をに耳を慣らすよう練習していきましょう。職場ですぐ使える応用力を身につけるため、病院などで遭遇しそうな場面・内容を取り入れたケーススタディーの練習問題を発音・発話練習と共に取り組んでいきましょう。								
授業の到達目標	1 基本英文法を定着させ、その知識を日常生活や医療の現場で使うことができる。〈文法力の養成〉 2 英語リスニングのポイントをふまえて英語発音を聞き取ることができる。〈英語を聞きとる力の養成〉 3 英語文化圏における日常生活や医療現場でよく使用される語彙や表現を知り、読解を通して知識を高め、英語Communicationに役立てることができる。〈語彙表現力、スピーキング力、読解力、異文化理解の養成〉								
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 Guidance 第16週目 Lesson 7 Reception Desk 再診受付(1) 第2週目 Lesson 1 Basic Words and Phrases はじめの一步(1) 第17週目 Lesson 7 Reception Desk 再診受付(2) 第3週目 Lesson 1 Basic Words and Phrases はじめの一步(2) 第18週目 Lesson 9 Symptoms and Diseases 症状と病名(1) 第4週目 Lesson 2 Body Parts and Organs 体と内臓(1) 第19週目 Lesson 9 Symptoms and Diseases 症状と病名(2) 第5週目 Lesson 2 Body Parts and Organs 体と内臓(2) 第20週目 Lesson 10 Medical Terminology 医療用語【略語】(1) 第6週目 Lesson 3 Hospital Registration 新患受付(1) 第21週目 Lesson 10 Medical Terminology 医療用語【略語】(2) 第7週目 Lesson 3 Hospital Registration 新患受付(2) 第22週目 Lesson 11 Getting to the Hospital 病院へのアクセス(1) 第8週目 Review 1-3 第23週目 Lesson 11 Getting to the Hospital 病院へのアクセス(2) 第9週目 Lesson 4 Hospital Registration Forms 診察申込書(1) 第24週目 Lesson 12 Finding Your way Around 案内(1) 第10週目 Lesson 4 Hospital Registration Forms 診察申込書(2) 第25週目 Lesson 12 Finding Your way Around 案内(2) 第11週目 Lesson 5 Personal Information 個人情報(1) 第26週目 Lesson 13 At the Cashier's Window 会計(1) 第12週目 Lesson 5 Personal Information 個人情報(2) 第27週目 Lesson 13 At the Cashier's Window 会計(2) 第13週目 Lesson 6 Admissions 入院受付(1) 第28週目 Lesson 14 At the Pharmacy 薬局(1) 第14週目 Lesson 6 Admissions 入院受付(2) 第29週目 Lesson 14 At the Pharmacy 薬局(2) 第15週目 Review 4-6 第30週目 Review 7-14 (授業の方法および自学学習について): 毎回授業の中で、解答や練習成果を発表してもらいます。 [授業方法] (1) 授業の中でテキスト音声を繰り返し聞く。(2) テキストの演習問題を解きながら、英語表現、文法を学修する。(3) 英語Communication力を身につけるために、英語発音・発話を積極的に声を出して練習する。 [自主学习について] 事前学修: 英語単語・表現の意味を調べましょう。(2) テキストの音声ファイルを聞きましょう。 事後学修: 授業で行った演習内容を振り返り、声に出して発音・発話練習をしてみましょう。								
教科書・参考書等	『Basic English for Medical Office Assistants 医療事務スタッフをめざす人のための医療英語』(南雲堂) ※毎回、電子辞書or英和辞典を持参すること。(必須)								
成績評価の方法	(1) 確認テスト各評価の70%:(前期2回)(30+30)60点分 (後期1回)60点分 (2) 各講義中の取り組み・発表に対して評価します。〈半期ごと最終評価の40%(40点分)に相当〉 【(2)の評価ポイント:①声を出して正確に英語発音できる。②テキストの演習問題に解答できる。③簡単な英語の質問に対して英語で答えられる。④私語や居眠りなどがある場合はマイナス点が発生する。】*欠席の場合、その講義回で上記(2)で得られた点数が「0点」となる。 上記項目により総合成績が60点以上の場合に単位を認定する(59点以下は不合格となる)。不合格であった場合、学校が行う追試験を受験する(その場合、最高点は60点となる)。また欠席(数)に関する扱いは学校の取り決めに従うものとする。進捗について、学生の理解度に合わせ進んでいくため、講義内容が変わる場合も可能性としてあるが、その時は逐次アナウンスする。								
実践的教育に関する経歴等	1 東北学院大学非常勤講師現職、宮城学院女子大学非常勤講師現職、 日本大学工学部非常勤講師現職、石巻赤十字看護専門学校非常勤講師現職 2 中学校、高等学校教員免許(英語)								

授業科目名	解剖学 I			授業形態	講義	教員名	清水 良央																																							
科目区分	専門基礎分野	単位数	4 単位	時間数	72 時間	期間	通年	36 回	対象学年	1 年生																																				
授業概要	ヒトの体の細胞、組織、また神経、感覚器に関して肉眼解剖学および顕微解剖学的な知識を習得することが一義的な目標であるが、同時に診断、治療に有用な知識として活用する力をつける。基本的にはスライド講義により図を見ながら立体的構造のイメージをできる力をつける。																																													
授業の到達目標	1)解剖学について医学の中の基本的な位置づけ、考え方、学び方を学ぶ。 2)顕微解剖としての細胞、組織、発生を説明できる。 3)神経系について解剖学的知識を習得する。 4)感覚器について解剖学的知識を習得する。																																													
授業内容・計画	(授業計画) <table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">第1週目 解剖学序論</td> <td style="width:50%;">第19週目 末梢神経総論</td> </tr> <tr> <td>第2週目 解剖学用語</td> <td>第20週目 脊髄神経総論、頸神経</td> </tr> <tr> <td>第3週目 細胞</td> <td>第21週目 頸神経</td> </tr> <tr> <td>第4週目 細胞</td> <td>第22週目 頸神経、胸神経</td> </tr> <tr> <td>第5週目 組織</td> <td>第23週目 腰神経</td> </tr> <tr> <td>第6週目 組織</td> <td>第24週目 腰神経</td> </tr> <tr> <td>第7週目 発生</td> <td>第25週目 仙骨神経</td> </tr> <tr> <td>第8週目 神経系総論</td> <td>第26週目 仙骨神経・尾骨神経</td> </tr> <tr> <td>第9週目 中枢神経系総論</td> <td>第27週目 脳神経概略</td> </tr> <tr> <td>第10週目 中枢神経・終脳</td> <td>第28週目 脳神経</td> </tr> <tr> <td>第11週目 中枢神経・終脳、脳幹</td> <td>第29週目 脳神経</td> </tr> <tr> <td>第12週目 中枢神経・脳幹</td> <td>第30週目 自律神経</td> </tr> <tr> <td>第13週目 中枢神経・脳幹、小脳</td> <td>第31週目 自律神経</td> </tr> <tr> <td>第14週目 中枢神経・脊髄</td> <td>第32週目 感覚器</td> </tr> <tr> <td>第15週目 伝導路</td> <td>第33週目 感覚器</td> </tr> <tr> <td>第16週目 伝導路</td> <td>第34週目 感覚器</td> </tr> <tr> <td>第17週目 前期期末試験</td> <td>第35週目 後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>第18週目 前期期末試験解説</td> <td>第36週目 後期期末試験解説</td> </tr> </table> (授業の方法および自学学習について) ・講義はスライドを利用した講義を行うが、教科書を読んでくれることが望ましい。 ・講義スライド内容に合わせたレポート用資料を配布する。 ・レポートは講義中または自宅にて作成する。 ・レポート資料は単元が終わるごとに提出し、平常点としての評価する。										第1週目 解剖学序論	第19週目 末梢神経総論	第2週目 解剖学用語	第20週目 脊髄神経総論、頸神経	第3週目 細胞	第21週目 頸神経	第4週目 細胞	第22週目 頸神経、胸神経	第5週目 組織	第23週目 腰神経	第6週目 組織	第24週目 腰神経	第7週目 発生	第25週目 仙骨神経	第8週目 神経系総論	第26週目 仙骨神経・尾骨神経	第9週目 中枢神経系総論	第27週目 脳神経概略	第10週目 中枢神経・終脳	第28週目 脳神経	第11週目 中枢神経・終脳、脳幹	第29週目 脳神経	第12週目 中枢神経・脳幹	第30週目 自律神経	第13週目 中枢神経・脳幹、小脳	第31週目 自律神経	第14週目 中枢神経・脊髄	第32週目 感覚器	第15週目 伝導路	第33週目 感覚器	第16週目 伝導路	第34週目 感覚器	第17週目 前期期末試験	第35週目 後期期末試験	第18週目 前期期末試験解説	第36週目 後期期末試験解説
第1週目 解剖学序論	第19週目 末梢神経総論																																													
第2週目 解剖学用語	第20週目 脊髄神経総論、頸神経																																													
第3週目 細胞	第21週目 頸神経																																													
第4週目 細胞	第22週目 頸神経、胸神経																																													
第5週目 組織	第23週目 腰神経																																													
第6週目 組織	第24週目 腰神経																																													
第7週目 発生	第25週目 仙骨神経																																													
第8週目 神経系総論	第26週目 仙骨神経・尾骨神経																																													
第9週目 中枢神経系総論	第27週目 脳神経概略																																													
第10週目 中枢神経・終脳	第28週目 脳神経																																													
第11週目 中枢神経・終脳、脳幹	第29週目 脳神経																																													
第12週目 中枢神経・脳幹	第30週目 自律神経																																													
第13週目 中枢神経・脳幹、小脳	第31週目 自律神経																																													
第14週目 中枢神経・脊髄	第32週目 感覚器																																													
第15週目 伝導路	第33週目 感覚器																																													
第16週目 伝導路	第34週目 感覚器																																													
第17週目 前期期末試験	第35週目 後期期末試験																																													
第18週目 前期期末試験解説	第36週目 後期期末試験解説																																													
教科書・参考書等	解剖学 社団法人全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版																																													
成績評価の方法	基本的には前期、後期期末試験の試験結果で評価を行うが、提出レポートの有無、内容、また講義中に行われる小テストの結果についても評価に加える。																																													
実践的教育に関する経歴等	①歯科医師免許、②解剖資格、③大学での解剖学、病理学の講義、実習担当																																													

授業科目名	解剖学Ⅱ			授業形態	講義	教員名	齋藤 悠・清水 良央			
科目区分	専門基礎分野	単位数	4 単位	時間数	72 時間	期間	通年	36 回	対象学年	1 年生
授業概要	ヒトの体の内臓系に関して肉眼解剖学および顕微解剖学的な知識を習得することが目標であるが、同時に患者の基礎疾患、既往歴、家族歴などを理解するための知識を習得する。脈管系に関しては、肉眼解剖学および顕微解剖学的な知識を習得するが、特に体表からの位置をイメージできるようにすることを目的とする。									
授業の到達目標	1)内臓系について、肉眼解剖および顕微解剖学的知識を習得する。 2)内臓系については患者の基礎疾患等について理解するための解剖学的知識の使い方を考える。 3)脈管系について、肉眼解剖および顕微解剖学的知識を習得する。 4)脈管系について臨床的に診断、治療に利用できる知識と考え方を身につける。									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 消化器概略 第2週目 消化器 口腔 第3週目 消化器 口腔 第4週目 消化器 咽頭から胃 第5週目 消化器 小腸 第6週目 消化器 大腸 第7週目 消化器 肝臓 第8週目 消化器 膵臓、胆嚢 第9週目 呼吸器概略 第10週目 呼吸器 第11週目 呼吸器 第12週目 泌尿器 第13週目 泌尿器 第14週目 生殖器 男性 第15週目 生殖器 男性、女性 第16週目 生殖器 女性 第17週目 前期期末試験 第18週目 前期期末試験解説 第19週目 脈管総論 第20週目 心臓の構造 第21週目 心臓の構造 第22週目 動脈概観 第23週目 頭頸部の動脈 第24週目 上肢の動脈 第25週目 胸部腹部の動脈 第26週目 骨盤部、下肢の動脈 第27週目 静脈概観 第28週目 静脈 上大静脈系 第29週目 静脈 下大静脈系 第30週目 胎児循環 第31週目 リンパ性器官 第32週目 リンパ性器官 第33週目 内分泌 第34週目 内分泌 第35週目 後期期末試験 第36週目 後期期末試験解説 (授業の方法および自学学習について) ・前期:齋藤、後期:清水が担当する。 ・基本的に講義はスライドを用いた講義とするが、講義前に教科書を読んでおくことが望ましい。 ・後期は解剖学Ⅰと同様の内容で進める。									
教科書・参考書等	解剖学 社団法人全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版									
成績評価の方法	前期:基本的には前期、後期期末試験の試験結果で評価を行う。提出レポートの有無、内容、また講義中に行われる小テストの結果についても評価に加える。 後期:基本的には前期、後期期末試験の試験結果で評価を行うが、提出レポートの有無、内容、また講義中に行われる小テストの結果についても評価に加える。									
実践的教育に関する経歴等	①歯科医師免許、②解剖資格(後期のみ)、③大学での解剖学(後期のみ)、病理学の講義、実習担当									

授業科目名	生理学 I			授業形態	講義	教員名	原 光平				
科目区分	専門基礎分野	単位数	4 単位	時間数	72 時間	期間	通年	36 回	対象学年	1 年生	
授業概要	人体の機能を学んでいく中で生理学の仕組みを把握し、各種疾患の理解を目指す。また、学生にとって必須の生理学を体系的に学び、膨大な知識を有機的に結びつけていくことによって、柔道整復師として必要不可欠な基礎知識を効率的かつ網羅的に習得していく。										
授業の到達目標	1) 血液、循環、呼吸、消化と吸収、栄養と代謝、体温とその調節、尿の生成と排泄についての重要事項を理解できる。 2) 上記の分野について、国家試験にも充分対応できる基礎知識が身につく。										
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 血液の生理学① 講義の説明 第2週目 血液の生理学② 役割、組成 第3週目 血液の生理学③ 血液型 第4週目 血液の生理学④ 免疫、凝固 第5週目 循環の生理学① 心臓の機能 第6週目 循環の生理学② 血管の構造と働き 第7週目 循環の生理学③ 血圧 リンパ管系 第8週目 循環の生理学④ 局所循環 第9週目 中間試験 第10週目 中間試験 返却・解説 第11週目 呼吸の生理学① 呼吸器の機能的構造 第12週目 呼吸の生理学② 換気 第13週目 呼吸の生理学③ 血液中の酸素運搬 第14週目 呼吸の生理学④ 血液中の二酸化炭素運搬 第15週目 まとめ講義① 第16週目 まとめ講義② 第17週目 期末試験 第18週目 期末試験 返却・解説 第19週目 消化と吸収① 講義の説明 第20週目 消化と吸収② 消化器系の働き 第21週目 消化と吸収③ 消化液の分泌 第22週目 消化と吸収④ 消化管ホルモン、肝臓、胆嚢 第23週目 栄養と代謝① 代謝とは 第24週目 栄養と代謝② 中間代謝 第25週目 栄養と代謝③ エネルギー代謝 第26週目 中間試験 第27週目 中間試験 返却・解説 第28週目 体温とその調節① 熱産生 第29週目 体温とその調節② 熱放散 第30週目 尿の生成と排泄① 腎臓の構造と機能 第31週目 尿の生成と排泄② ろ過、再吸収 第32週目 尿の生成と排泄③ 生成、成分 第33週目 まとめ講義① 第34週目 まとめ講義② 第35週目 期末試験 第36週目 期末試験 返却・解説 (授業の方法および自学学習について) ・スライドを映しながら講義し、最重要項目を確認していく。(スライドは講義前に配布する) ・指定の教科書を用いて、重要項目をみれなく確認していく。 ・勉強する内容が多いので、講義後は 必ず復習 すること。										
教科書・参考書等	・生理学（南江堂）を教科書とする。										
成績評価の方法	中間試験(50点) 期末試験(50点) の100点満点で評価し 上記項目の合計点が60点以上で合格とし単位認定する。 場合により、レポート点も合計点に加点する。										
実践的教育に関する経歴等	①歯科医師 ②歯科医院勤務 ③大学病院歯科勤務										

授業科目名	生理学Ⅱ			授業形態	講義	教員名	柿澤 海月																																																																											
科目区分	専門基礎科目	単位数	4 単位	時間数	72 時間	期間	通年	36 回	対象学年	1 年生																																																																								
授業概要	人体の機能を学んでいく事で、正常人における体の仕組みを把握し、各種疾患の理解の基本を形成していく。																																																																																	
授業の到達目標	人体の機能を学習し、その機序を理解する。																																																																																	
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目</td> <td>生理学の基礎1 人体の構成要素～からだの化学的構成</td> <td>第19週目</td> <td>神経系の機能1 神経系の成り立ち</td> </tr> <tr> <td>第2週目</td> <td>生理学の基礎2 細胞の機能的構造</td> <td>第20週目</td> <td>神経系の機能2 脳神経とその機能</td> </tr> <tr> <td>第3週目</td> <td>生理学の基礎3 拡散～エクソサイトーシス</td> <td>第21週目</td> <td>神経系の機能3 内臓機能の調節①自律神経</td> </tr> <tr> <td>第4週目</td> <td>体液の生理学</td> <td>第22週目</td> <td>神経系の機能4 内臓機能の調節②内臓反射</td> </tr> <tr> <td>第5週目</td> <td>内分泌系の機能1 内分泌腺、ホルモンの一般的性質</td> <td>第23週目</td> <td>神経系の機能5 内臓機能の調節③視床下部</td> </tr> <tr> <td>第6週目</td> <td>内分泌系の機能2 視床下部のホルモン、下垂体のホルモン</td> <td>第24週目</td> <td>神経系の機能6 姿勢と運動の調節①運動調節のしくみ～体性反射と中枢</td> </tr> <tr> <td>第7週目</td> <td>内分泌系の機能3 甲状腺のホルモン</td> <td>第25週目</td> <td>神経系の機能7 姿勢と運動の調節②脊髄反射～脳幹を中枢とする運動機能</td> </tr> <tr> <td>第8週目</td> <td>内分泌系の機能4 副腎皮質のホルモン</td> <td>第26週目</td> <td>神経系の機能8 姿勢と運動の調節③小脳と大脳基底核</td> </tr> <tr> <td>第9週目</td> <td>内分泌系の機能5 副腎髄質のホルモン</td> <td>第27週目</td> <td>神経系の機能9 姿勢と運動の調節④新皮質運動野</td> </tr> <tr> <td>第10週目</td> <td>内分泌系の機能6 膵臓のホルモン</td> <td>第28週目</td> <td>神経系の機能10 高次機能①大脳皮質の機能分化～覚醒と睡眠</td> </tr> <tr> <td>第11週目</td> <td>内分泌系の機能7 精巣・卵巣のホルモン</td> <td>第29週目</td> <td>神経系の機能11 高次機能①新皮質運動野の統合機能～学習と記憶</td> </tr> <tr> <td>第12週目</td> <td>生殖の生理学1 性染色体とその異常、性分化</td> <td>第30週目</td> <td>感覚の生理学1 感覚の種類、一般的性質</td> </tr> <tr> <td>第13週目</td> <td>生殖の生理学2 男性・女性生殖器の構成</td> <td>第31週目</td> <td>感覚の生理学2 体性感覚、内臓感覚</td> </tr> <tr> <td>第14週目</td> <td>生殖の生理学3 卵巣周期～乳汁分泌</td> <td>第32週目</td> <td>感覚の生理学3 視覚、目の構造</td> </tr> <tr> <td>第15週目</td> <td>神経系の基本的機能1 神経細胞の形態～活動電位</td> <td>第33週目</td> <td>感覚の生理学4 聴覚</td> </tr> <tr> <td>第16週目</td> <td>神経系の基本的機能2 イオンチャネル～興奮の伝達</td> <td>第34週目</td> <td>感覚の生理学5 前庭感覚、嗅覚、味覚</td> </tr> <tr> <td>第17週目</td> <td>試験</td> <td>第35週目</td> <td>試験</td> </tr> <tr> <td>第18週目</td> <td>試験解説</td> <td>第36週目</td> <td>試験解説</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p>										第1週目	生理学の基礎1 人体の構成要素～からだの化学的構成	第19週目	神経系の機能1 神経系の成り立ち	第2週目	生理学の基礎2 細胞の機能的構造	第20週目	神経系の機能2 脳神経とその機能	第3週目	生理学の基礎3 拡散～エクソサイトーシス	第21週目	神経系の機能3 内臓機能の調節①自律神経	第4週目	体液の生理学	第22週目	神経系の機能4 内臓機能の調節②内臓反射	第5週目	内分泌系の機能1 内分泌腺、ホルモンの一般的性質	第23週目	神経系の機能5 内臓機能の調節③視床下部	第6週目	内分泌系の機能2 視床下部のホルモン、下垂体のホルモン	第24週目	神経系の機能6 姿勢と運動の調節①運動調節のしくみ～体性反射と中枢	第7週目	内分泌系の機能3 甲状腺のホルモン	第25週目	神経系の機能7 姿勢と運動の調節②脊髄反射～脳幹を中枢とする運動機能	第8週目	内分泌系の機能4 副腎皮質のホルモン	第26週目	神経系の機能8 姿勢と運動の調節③小脳と大脳基底核	第9週目	内分泌系の機能5 副腎髄質のホルモン	第27週目	神経系の機能9 姿勢と運動の調節④新皮質運動野	第10週目	内分泌系の機能6 膵臓のホルモン	第28週目	神経系の機能10 高次機能①大脳皮質の機能分化～覚醒と睡眠	第11週目	内分泌系の機能7 精巣・卵巣のホルモン	第29週目	神経系の機能11 高次機能①新皮質運動野の統合機能～学習と記憶	第12週目	生殖の生理学1 性染色体とその異常、性分化	第30週目	感覚の生理学1 感覚の種類、一般的性質	第13週目	生殖の生理学2 男性・女性生殖器の構成	第31週目	感覚の生理学2 体性感覚、内臓感覚	第14週目	生殖の生理学3 卵巣周期～乳汁分泌	第32週目	感覚の生理学3 視覚、目の構造	第15週目	神経系の基本的機能1 神経細胞の形態～活動電位	第33週目	感覚の生理学4 聴覚	第16週目	神経系の基本的機能2 イオンチャネル～興奮の伝達	第34週目	感覚の生理学5 前庭感覚、嗅覚、味覚	第17週目	試験	第35週目	試験	第18週目	試験解説	第36週目	試験解説
第1週目	生理学の基礎1 人体の構成要素～からだの化学的構成	第19週目	神経系の機能1 神経系の成り立ち																																																																															
第2週目	生理学の基礎2 細胞の機能的構造	第20週目	神経系の機能2 脳神経とその機能																																																																															
第3週目	生理学の基礎3 拡散～エクソサイトーシス	第21週目	神経系の機能3 内臓機能の調節①自律神経																																																																															
第4週目	体液の生理学	第22週目	神経系の機能4 内臓機能の調節②内臓反射																																																																															
第5週目	内分泌系の機能1 内分泌腺、ホルモンの一般的性質	第23週目	神経系の機能5 内臓機能の調節③視床下部																																																																															
第6週目	内分泌系の機能2 視床下部のホルモン、下垂体のホルモン	第24週目	神経系の機能6 姿勢と運動の調節①運動調節のしくみ～体性反射と中枢																																																																															
第7週目	内分泌系の機能3 甲状腺のホルモン	第25週目	神経系の機能7 姿勢と運動の調節②脊髄反射～脳幹を中枢とする運動機能																																																																															
第8週目	内分泌系の機能4 副腎皮質のホルモン	第26週目	神経系の機能8 姿勢と運動の調節③小脳と大脳基底核																																																																															
第9週目	内分泌系の機能5 副腎髄質のホルモン	第27週目	神経系の機能9 姿勢と運動の調節④新皮質運動野																																																																															
第10週目	内分泌系の機能6 膵臓のホルモン	第28週目	神経系の機能10 高次機能①大脳皮質の機能分化～覚醒と睡眠																																																																															
第11週目	内分泌系の機能7 精巣・卵巣のホルモン	第29週目	神経系の機能11 高次機能①新皮質運動野の統合機能～学習と記憶																																																																															
第12週目	生殖の生理学1 性染色体とその異常、性分化	第30週目	感覚の生理学1 感覚の種類、一般的性質																																																																															
第13週目	生殖の生理学2 男性・女性生殖器の構成	第31週目	感覚の生理学2 体性感覚、内臓感覚																																																																															
第14週目	生殖の生理学3 卵巣周期～乳汁分泌	第32週目	感覚の生理学3 視覚、目の構造																																																																															
第15週目	神経系の基本的機能1 神経細胞の形態～活動電位	第33週目	感覚の生理学4 聴覚																																																																															
第16週目	神経系の基本的機能2 イオンチャネル～興奮の伝達	第34週目	感覚の生理学5 前庭感覚、嗅覚、味覚																																																																															
第17週目	試験	第35週目	試験																																																																															
第18週目	試験解説	第36週目	試験解説																																																																															
教科書・参考書等	生理学改訂第4版1(南江堂) 史上最強カラー図解はじめての生理学第3刷(ナツメ社)																																																																																	
成績評価の方法	定期試験による																																																																																	
実践的教育に関する経歴等	歯科医師																																																																																	

授業科目名	運動器の構造と機能 I			授業形態	講義	教員名	草刈 直貴																																							
科目区分	専門基礎分野	単位数	4 単位	時間数	72 時間	期間	通年	36 回	対象学年	1 年生																																				
授業概要	医療に携わる者として運動器の知識は重要である。柔道整復師であれば必須の知識となる。本講義では柔道整復師として必要不可欠な運動器の知識を修得することで、柔道整復術を学ぶための基礎作りを目的とする。																																													
授業の到達目標	1) 運動器の形態と構造を学習し理解する。 2) 骨と筋の生理学的機能を学習し理解する。																																													
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 オリエンテーション</td> <td>第19週目 胸郭の連結</td> </tr> <tr> <td>第2週目 骨格・全体像</td> <td>第20週目 上肢の関節</td> </tr> <tr> <td>第3週目 骨の構造</td> <td>第21週目 下肢の関節</td> </tr> <tr> <td>第4週目 骨の発生と成長、骨表面の形状</td> <td>第22週目 骨格筋の総論</td> </tr> <tr> <td>第5週目 骨の連結①</td> <td>第23週目 頭部の筋</td> </tr> <tr> <td>第6週目 骨の連結②</td> <td>第24週目 頸部の筋</td> </tr> <tr> <td>第7週目 胸郭、胸骨、肋骨</td> <td>第25週目 胸部の筋</td> </tr> <tr> <td>第8週目 上肢骨の構成、肩甲骨、鎖骨</td> <td>第26週目 腹部の筋</td> </tr> <tr> <td>第9週目 上腕骨、橈骨、尺骨</td> <td>第27週目 背部の筋</td> </tr> <tr> <td>第10週目 手根骨、中手骨、指骨、種子骨</td> <td>第28週目 上肢の筋①</td> </tr> <tr> <td>第11週目 下肢骨の構成、寛骨、骨盤</td> <td>第29週目 上肢の筋②</td> </tr> <tr> <td>第12週目 大腿骨、膝蓋骨</td> <td>第30週目 下肢の筋①</td> </tr> <tr> <td>第13週目 脛骨、腓骨</td> <td>第31週目 下肢の筋②</td> </tr> <tr> <td>第14週目 足根骨、中足骨、指骨、縦足弓・横足弓</td> <td>第32週目 骨の機能</td> </tr> <tr> <td>第15週目 脊柱</td> <td>第33週目 筋の機能</td> </tr> <tr> <td>第16週目 頭蓋、テスト対策</td> <td>第34週目 筋の機能</td> </tr> <tr> <td>第17週目 期末テスト Aグループ</td> <td>第35週目 期末テスト Bグループ</td> </tr> <tr> <td>第18週目 期末テスト Bグループ</td> <td>第36週目 期末テスト Aグループ</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>講義方法は範囲によって板書中心、教科書中心、プリント中心と変化する。詳細は都度説明する。 講義中、許可のない撮影及び録音は禁止とし、発覚した場合は単位修得を認めない。 各学期の小テスト及び期末テストは、講義の進行状況により日程、内容を変更する場合がある。</p>										第1週目 オリエンテーション	第19週目 胸郭の連結	第2週目 骨格・全体像	第20週目 上肢の関節	第3週目 骨の構造	第21週目 下肢の関節	第4週目 骨の発生と成長、骨表面の形状	第22週目 骨格筋の総論	第5週目 骨の連結①	第23週目 頭部の筋	第6週目 骨の連結②	第24週目 頸部の筋	第7週目 胸郭、胸骨、肋骨	第25週目 胸部の筋	第8週目 上肢骨の構成、肩甲骨、鎖骨	第26週目 腹部の筋	第9週目 上腕骨、橈骨、尺骨	第27週目 背部の筋	第10週目 手根骨、中手骨、指骨、種子骨	第28週目 上肢の筋①	第11週目 下肢骨の構成、寛骨、骨盤	第29週目 上肢の筋②	第12週目 大腿骨、膝蓋骨	第30週目 下肢の筋①	第13週目 脛骨、腓骨	第31週目 下肢の筋②	第14週目 足根骨、中足骨、指骨、縦足弓・横足弓	第32週目 骨の機能	第15週目 脊柱	第33週目 筋の機能	第16週目 頭蓋、テスト対策	第34週目 筋の機能	第17週目 期末テスト Aグループ	第35週目 期末テスト Bグループ	第18週目 期末テスト Bグループ	第36週目 期末テスト Aグループ
第1週目 オリエンテーション	第19週目 胸郭の連結																																													
第2週目 骨格・全体像	第20週目 上肢の関節																																													
第3週目 骨の構造	第21週目 下肢の関節																																													
第4週目 骨の発生と成長、骨表面の形状	第22週目 骨格筋の総論																																													
第5週目 骨の連結①	第23週目 頭部の筋																																													
第6週目 骨の連結②	第24週目 頸部の筋																																													
第7週目 胸郭、胸骨、肋骨	第25週目 胸部の筋																																													
第8週目 上肢骨の構成、肩甲骨、鎖骨	第26週目 腹部の筋																																													
第9週目 上腕骨、橈骨、尺骨	第27週目 背部の筋																																													
第10週目 手根骨、中手骨、指骨、種子骨	第28週目 上肢の筋①																																													
第11週目 下肢骨の構成、寛骨、骨盤	第29週目 上肢の筋②																																													
第12週目 大腿骨、膝蓋骨	第30週目 下肢の筋①																																													
第13週目 脛骨、腓骨	第31週目 下肢の筋②																																													
第14週目 足根骨、中足骨、指骨、縦足弓・横足弓	第32週目 骨の機能																																													
第15週目 脊柱	第33週目 筋の機能																																													
第16週目 頭蓋、テスト対策	第34週目 筋の機能																																													
第17週目 期末テスト Aグループ	第35週目 期末テスト Bグループ																																													
第18週目 期末テスト Bグループ	第36週目 期末テスト Aグループ																																													
教科書・参考書等	(社)全国柔道整復学校協会監修『解剖学(改訂第2版)』 医歯薬出版 (社)全国柔道整復学校協会監修『生理学(改訂第4版)』 南江堂 他、授業内容に応じて資料を配布する。																																													
成績評価の方法	【前期】小テスト(約10回)と期末テスト(1回)により評価する。詳細は別紙にて案内する。 【後期】小テスト(約10回)と期末テスト(1回)により評価する。詳細は別紙にて案内する。 前期成績が60点未満の場合、前期再試験の対象となる。 後期成績が60点未満の場合、後期再試験の対象となる。(前期との合計が120点以上の場合を除く) 前期・後期の合計が120点以上の場合、単位修得を認める。(学習態度を考慮し加点する場合がある)																																													
実践的教育に関する経歴等	柔道整復専科教員資格																																													

授業科目名	柔道整復師の歴史			授業形態	講義	教員名	菅野貴宏				
科目区分	専門基礎分野	単位数	1 単位	時間数	18 時間	期間	半期	9 回	対象学年	1 年生	
授業概要	医学の歴史に紐づく柔道整復師の歴史を巡り、柔道整復師の成り立ちを学習する。										
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代医学がどのような変遷をたどってきたのかを理解する。 ・柔道整復師の成り立ちを理解する。 										
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1週目 医学史の概説1 第2週目 医学史の概説2 第3週目 医学史の概説3 第4週目 医学史の概説4 第5週目 柔道整復師の成り立ち1 第6週目 柔道整復師の成り立ち2 第7週目 柔道整復師と嘉納治五郎 第8週目 現代の柔道整復師1 第9週目 現代の柔道整復師2 <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料をもとに授業を進める。 ・欠席した場合はClassroomにより授業資料を提示するので、各自学習すること。 ・授業ごとに課題提出を義務とする。(欠席した場合も提出すること) <ul style="list-style-type: none"> ①提出状況による評価⇒未提出5点減点、期限後提出3点減点 ②課題の成果による評価⇒正答率80%以上を合格とし、不合格の場合は3点減とする 										
教科書・参考書等											
成績評価の方法	<p>課題の成果(80%) 出欠状況(20%) * 欠席1回3点減点とする</p> <p>上記の項目により総合成績が60点以上の場合に単位を認定する。</p>										
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師専科教員資格										

授業科目名	柔道整復師と職業倫理			授業形態	講義	教員名	菅野貴宏			
科目区分	専門基礎分野	単位数	1 単位	時間数	18 時間	期間	半期	9 回	対象学年	1 年生
授業概要	接骨院における柔道整復師の業務の概要や健康保険制度などの関連制度を学習する。「柔道整復師」に与えられている使命や療養費制度を利用する中で法令順守の精神がなぜ重要なのかを学習する。									
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療保険制度と療養費について概略を説明できる。 ・「柔道整復師」の役割を説明できる。 ・患者の権利の概要を説明できる。 									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 柔道整復師と医療保険制度1 第2週目 柔道整復師と医療保険制度2 第3週目 柔道整復師と医療保険制度3 第4週目 小テストと解説、その他 第5週目 医療者の倫理観 第6週目 患者の権利 第7週目 柔道整復師の職業倫理1 第8週目 柔道整復師の職業倫理2 第9週目 試験と試験解説</p> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料をもとに講義形式で進め、授業内容の一部ではグループワークを取り入れる。 ・まとめプリントを使って要点を復習しておくこと。 ・配布資料の紛失による再配布はしない。(欠席した授業の資料は各自担当教員に申し出る事) ・欠席した授業はClassroomから資料を配信するので、各自学習しておくこと。 									
教科書・参考書等										
成績評価の方法	小テストの評価(20%) グループワークの評価(20%) テストの評価(60%) 上記の項目により総合成績が60点以上の場合に単位を認定する。									
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師専科教員資格									

授業科目名	柔道整復総論 I			授業形態	講義	教員名	高野 正和			
科目区分	専門分野	単位数	4 単位	時間数	72 時間	期間	通年	36 回	対象学年	1 年生
授業概要	①柔道整復術とは何かを学び、骨の損傷について学習していく。 ②骨・関節の損傷の理解を深めるため、骨・関節の形態や機能、具体的な名称などを学習する。 ③小テスト等により国家試験に対応できる知識を学習する。									
授業の到達目標	・柔道整復術の意義と人体に加わる外力の概念を理解する。 ・骨の形態や機能および骨損傷とは何かを理解する。 ・関節損傷とは何かを理解する。									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 オリエンテーション 第2週目 人体に加わる力、損傷時に加わる力 第3週目 痛みの基礎① 第4週目 痛みの基礎②、練習問題1 第5週目 練習問題2 第6週目 骨の形態と機能、骨損傷の概説、骨の性状による分類、練習問題3 第7週目 骨損傷の程度による分類(完全骨折、不全骨折)、練習問題4 第8週目 骨折線の方法による分類、骨折部と創部との交通の有無による分類、骨折の数、練習問題5 第9週目 前期小テスト 第10週目 外力の働いた部位による分類、外力の働き方による分類 第11週目 骨折の局所症状① 第12週目 骨折の局所症状②、練習問題6、骨折の全身症状 第13週目 併発症、続発症① 第14週目 続発症②、後遺症① 第15週目 後遺症②、練習問題7 第16週目 前期期末テスト対策 第17週目 前期期末テスト 第18週目 前期期末テスト解説・総復習 第19週目 小児骨折 第20週目 高齢者骨折、練習問題8 第21週目 骨折の癒合日数、骨折の治癒経過 第22週目 骨折の予後、練習問題9 第23週目 関節の構造と機能① 第24週目 関節の構造と機能② 第25週目 関節損傷の概説、関節損傷の分類、靭帯・関節包の損傷など 第26週目 関節軟骨損傷① 第27週目 関節軟骨損傷②、練習問題10 第28週目 後期小テスト 第29週目 脱臼① 第30週目 脱臼② 第31週目 脱臼③ 第32週目 脱臼④ 第33週目 練習問題11 第34週目 後期期末テスト対策 第35週目 後期期末テスト 第36週目 後期期末テスト解説・総復習 (授業の方法および注意点) 講義は板書が中心となる。適宜、練習問題を配布する。 講義中、許可のない撮影及び録音は禁止とし、発覚した場合は単位修得を認めない。 各学期の小テスト及び期末テストは、講義の進行状況により日程、内容を変更する場合がある。									
教科書・参考書等	教科書:(社)全国柔道整復学校協会監修『柔道整復学・理論編(改訂第7版)』南江堂									
成績評価の方法	前期:前期期末テストの合計が60点以上の場合に合格とする。 (不合格の場合は前期再テストの対象となる。小テストの成績により加点減点を加味する。) 後期:後期小テスト及び後期期末テストの合計が60点以上の場合に合格とする。 (不合格の場合は後期再テストの対象となる。小テストの成績により加点減点を加味する。 ただし、前期との合計が120点に到達する場合は再テストを免除とし、単位修得を認める。)									
実践的教育に関する経歴等	柔道整復専科教員資格									

授業科目名	柔道整復総論Ⅱ			授業形態	講義	教員名	半澤 優				
科目区分	専門分野	単位数	4 単位	時間数	72 時間	期間	通年	36 回	対象学年	1 年生	
授業概要	基礎として各組織の損傷を理解することで各論として各損傷を理解するための土台作りを行う。理解度を深めるため、各組織の解剖学的構造や形態についても学習する。柔整師が行う徒手検査のうち、神経学的検査の仕組みと方法を学習し実技を行う。										
授業の到達目標	1)各組織(筋・腱・末梢神経)の損傷について理解し、学習する。 2)神経系の構造と機能を理解し、神経学的検査の仕組みや方法を学習する。 3)臨床の現場で神経学的検査を実践できる能力を身につける。										
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 ガイダンス 第19週目 脳神経系の機能 第2週目 筋の構造と機能 第20週目 脳神経系の機能 第3週目 筋の構造と機能 第21週目 脳神経系の機能 第4週目 筋損傷の概説・分類 第22週目 神経学的検査 第5週目 筋損傷の分類と症状 第23週目 神経学的検査 第6週目 筋損傷の治癒機序・予後 第24週目 神経学的検査 第7週目 神経の役割と構造について 第25週目 神経学的検査 第8週目 神経の役割と構造について 第26週目 神経学的検査 第9週目 神経損傷の概説・分類・症状・治癒機序 第27週目 神経学的検査 第10週目 神経損傷の概説・分類・症状・治癒機序 第28週目 神経学的検査 第11週目 腱の機能と構造について 第29週目 神経学的検査 第12週目 腱損傷の分類・症状・治癒機序 第30週目 後期末試験 実技試験全体練習 第13週目 中枢神経の解剖と機能区分 第31週目 後期末試験(実技) 第14週目 中枢神経の解剖と機能区分 第32週目 後期末試験(実技) 第15週目 中枢神経の解剖と機能区分 第33週目 後期末試験(実技) 第16週目 期末試験前復習 第34週目 期末試験前復習 第17週目 前期末試験 第35週目 後期末試験(筆記) 第18週目 前期末試験(解説) 第36週目 後期末試験(解説)										
	(授業の方法および自学学習について) ・後期は実技授業がメインとなる。動きやすい服装で授業に出席すること。 ・許可なく授業内容の撮影/録音/SNSへの投稿は禁止とする。 ・授業中の飲料摂取を許可する。										
教科書・参考書等	(社)全国柔道整復学校協会 監修『柔道整復学・理論編(改訂第7版)』 南江堂 (社)全国柔道整復学校協会 監修『解剖学(改訂第2版)』 医歯薬出版 (社)全国柔道整復学校協会 監修『生理学(改訂第4版)』 南江堂 他、授業内容に応じて資料を配布する。										
成績評価の方法	前期 : 期末試験 (筆記) 100% 後期 : 期末試験 (筆記) 50% (実技)50% ※通年で、120/200点以上を取得すれば単位を認定する。										
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師専科教員資格										

授業科目名	外傷の保存療法			授業形態	講義	教員名	津田新吾			
科目区分	専門分野	単位数	1 単位	時間数	18 時間	期間	半期	9 回	対象学年	1 年生
授業概要	外傷の保存療法について体系的に学習する。									
授業の到達目標	一般的な保存療法の概念を理解し、他者に説明出来るようになる事を目標とする。									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 骨折の整腹法 第2週目 脱臼の整腹法 第3週目 軟部組織損傷の処置 第4週目 固定法 第5週目 手技療法 第6週目 運動療法 第7週目 物理療法 第8週目 指導管理 第9週目 期末試験</p> <p>(授業の方法および自学学習について)</p>									
教科書・参考書等	柔道整復学・理論編(改訂第7版)									
成績評価の方法	期末試験 60% 総合評価 40% 総合評価については、初回講義時に資料を配布し説明する。									
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師・柔道整復専科教員資格									

授業科目名	柔道整復各論 I			授業形態	講義	教員名	鈴木美加				
科目区分	専門分野	単位数	4 単位	時間数	72 時間	期間	通年	36 回	対象学年	1 年生	
授業概要	頭部・顔面、頸部、胸・背部、腰部の各損傷について解剖と機能から学習し、各損傷の概要、発生機序、症状、合併損傷、治療法を学んでいく。また、症状が類似する注意すべき疾患について学んでいく。										
授業の到達目標	1) 頭部・顔面の損傷の鑑別、判断、治療法を習得し、治療計画を立てることができる。 2) 頸部の損傷の鑑別、判断、治療法を習得し、治療計画を立てることができる。 3) 胸・背部の損傷の鑑別、判断、治療法を習得し、治療計画を立てることができる。 4) 腰部の損傷の鑑別、判断、治療法を習得し、治療計画を立てることができる。										
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 オリエンテーション 第2週目 頭部、顔面の解剖と機能 第3週目 頭部、顔面の骨折 第4週目 頭部、顔面の骨折 第5週目 頭部、顔面の骨折 第6週目 頭部、顔面の骨折 第7週目 顎関節脱臼 第8週目 顎関節脱臼 第9週目 頭部、顔面部軟部組織損傷 第10週目 頭部、顔面部軟部組織損傷 第11週目 頸椎の解剖と機能 第12週目 頸椎の骨折 第13週目 頸椎の骨折、頸椎脱臼 第14週目 頸部の軟部組織損傷 第15週目 頸部の軟部組織損傷 第16週目 前期内容復習 第17週目 期末試験 第18週目 試験解説、問題演習 第19週目 胸・背部解剖と機能 第20週目 胸椎の骨折、脱臼 第21週目 腰・仙骨部の解剖と機能、腰椎の骨折、脱臼 第22週目 胸部の骨折 第23週目 胸部の骨折 第24週目 胸部の骨折 第25週目 胸部の骨折 第26週目 胸・背部の軟部組織損傷 第27週目 腰部の軟部組織損傷 第28週目 頸部その他の疾患 第29週目 頸部その他の疾患 第30週目 頸部その他の疾患 第31週目 腰部その他の疾患 第32週目 腰部その他の疾患 第33週目 腰部その他の疾患 第34週目 後期内容復習 第35週目 期末試験 第36週目 試験解説、問題演習										
	(授業の方法および自学学習について) ・資料を配布し、資料に沿って授業を行うことを基本とするが、課題学習を課し、その成果を授業の一部として置き換える場合がある。この場合、課題の提出が無い者は欠席扱いとする。 ・単元毎小テストを行い、結果を成績評価に含める。 ・授業毎に各自復習し、小テストに臨むこと。 ・小テストで不十分だったところは期末試験までにしっかり復習すること。 ・授業中の携帯電話の使用(録音、録画等含む)、SNS等への投稿を認めない。 ・授業中の水分補給は認めない。休憩時間に行うこと。										
教科書・参考書等	柔道整復学・理論編、柔道整復学・実技編										
成績評価の方法	①小テスト(20%)※各小テストは欠席-1点、60%未満-1点とする。 ただし、やむを得ず欠席した場合は、次の授業の前日までに受験し、60%以上であれば-1点を取消す。 ②期末試験の成績(80%) 上記の項目により総合成績が60点以上の場合に単位を認定する。 ただし、授業に臨む姿勢が好ましくない場合は減点とする場合がある。										
実践的教育に関する経歴等	①クリニック・整骨院勤務(5年間)										

授業科目名	柔道整復後療法演習			授業形態	実技	教員名	鈴木美加			
科目区分	専門分野	単位数	1 単位	時間数	18 時間	期間	半期	9 回	対象学年	1 年生
授業概要	柔道整復師が治療法として行う各後療法について実技演習を通し学習する。									
授業の到達目標	1) 手技療法 各基本手技の作用・効果、禁忌を理解し、目的に応じた手技を行うことができる。 2) 運動療法 運動の種類、目的、禁忌を理解し、主に器具を用いての運動療法の指導・実践を行うことができる。 3) 物理療法 物理療法の分類、適応と効果、禁忌を理解し、目的に応じた物理療法の選択・使用ができる。									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 後療法、手技療法 第19週目 第2週目 手技療法 第20週目 第3週目 運動療法 第21週目 第4週目 運動療法 第22週目 第5週目 運動療法 第23週目 第6週目 物理療法 第24週目 第7週目 物理療法 第25週目 第8週目 期末試験 第26週目 第9週目 試験解説、後療法の実際 第27週目 第10週目 第28週目 第11週目 第29週目 第12週目 第30週目 第13週目 第31週目 第14週目 第32週目 第15週目 第33週目 第16週目 第34週目 第17週目 第35週目 第18週目 第36週目 (授業の方法および自学学習について) ・実習内容に応じた場所で授業を行う。場所は都度伝える。 ・服装は、手技療法、物理療法の週は白衣、運動療法の週は動きやすい服装で行う。 ・授業中の携帯電話の使用(録音、録画等含む)、SNS等への投稿を認めない。 ・授業中の水分補給は認めない。休憩時間に行うこと。但し、運動療法の週は水のみ可とする。									
教科書・参考書等	柔道整復学・理論編、柔道整復学・実技編									
成績評価の方法	期末試験の成績 上記の項目が60点以上の場合に単位を認定する。 ただし、授業に臨む姿勢が好ましくない場合は、減点とする場合もある。									
実践的教育に関する経歴等	クリニック(リハビリ科)・整骨院勤務(5年間)									

授業科目名	柔道整復基礎実技 I			授業形態	実技	教員名	半澤 優																																							
科目区分	専門分野	単位数	2 単位	時間数	72 時間	期間	通年	36 回	対象学年	1 年生																																				
授業概要	実技/座学を通して包帯法・固定法を習得する。 基本包帯法、冠名包帯法、部位別包帯法、絆創膏固定を習得することで種々の疾患に対応できるように理解し、技術を磨いていく。																																													
授業の到達目標	柔道整復師に必要な包帯法及び固定法の基本的技術を習得すること。 先人たちが古来から研鑽してきた技術と知識を理論的に理解しつつ最新の技術や固定材料についても学ぶことで、2年次以降のより実践的な包帯法及び固定法へのスムーズなステップアップを果たすための基礎形成を目的とする。																																													
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 この授業について/包帯固定を考える①</td> <td>第19週目 冠名包帯法(デソー包帯①)☆</td> </tr> <tr> <td>第2週目 包帯固定を考える②</td> <td>第20週目 冠名包帯法(デソー包帯②)☆</td> </tr> <tr> <td>第3週目 巻軸帯の基礎</td> <td>第21週目 冠名包帯法(デソー包帯③)☆</td> </tr> <tr> <td>第4週目 基本包帯法(環行帯、螺旋帯、蛇行帯、折転帯)☆</td> <td>第22週目 冠名包帯法(ヴェルポー包帯①)☆</td> </tr> <tr> <td>第5週目 基本包帯法(亀甲帯、麦穂帯)☆</td> <td>第23週目 冠名包帯法(ヴェルポー包帯②)☆</td> </tr> <tr> <td>第6週目 固定の目的/範囲/肢位</td> <td>第24週目 冠名包帯法(ジュール包帯①)☆</td> </tr> <tr> <td>第7週目 部位別包帯法(足関節部①)☆</td> <td>第25週目 冠名包帯法(ジュール包帯②)☆</td> </tr> <tr> <td>第8週目 部位別包帯法(足関節部②)☆</td> <td>第26週目 固定材料の種類と特性</td> </tr> <tr> <td>第9週目 部位別包帯法(手関節部、手指部①)☆</td> <td>第27週目 ギプス固定の実際</td> </tr> <tr> <td>第10週目 部位別包帯法(手関節部、手指部②)☆</td> <td>第28週目 固定材料の作製(厚紙副子①)</td> </tr> <tr> <td>第11週目 部位別包帯法(肩部①)☆</td> <td>第29週目 固定材料の作製(厚紙副子②)</td> </tr> <tr> <td>第12週目 部位別包帯法(肩部②)☆</td> <td>第30週目 固定材料の作製(クラーメル副子)☆</td> </tr> <tr> <td>第13週目 部位別包帯法(肩部③)☆</td> <td>第31週目 固定材料の作製(吸水硬化性キャスト材①)</td> </tr> <tr> <td>第14週目 部位別包帯法(膝関節部)☆</td> <td>第32週目 固定材料の作製(吸水硬化性キャスト材②)</td> </tr> <tr> <td>第15週目 絆創膏固定(足関節捻挫①)☆</td> <td>第33週目 絆創膏固定(肘関節MCL損傷)</td> </tr> <tr> <td>第16週目 絆創膏固定(足関節捻挫②)☆</td> <td>第34週目 絆創膏固定(腓腹筋肉ばなれ)</td> </tr> <tr> <td>第17週目 前期期末試験(筆記)</td> <td>第35週目 後期期末試験(筆記)</td> </tr> <tr> <td>第18週目 三角巾の使い方</td> <td>第36週目 晒包帯</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業は実技をメインに実施する。(服装は白衣) ・許可なく授業内容の撮影/録音/SNSへの投稿は禁止とする。 ・授業中の必要な飲料摂取は許可する。 										第1週目 この授業について/包帯固定を考える①	第19週目 冠名包帯法(デソー包帯①)☆	第2週目 包帯固定を考える②	第20週目 冠名包帯法(デソー包帯②)☆	第3週目 巻軸帯の基礎	第21週目 冠名包帯法(デソー包帯③)☆	第4週目 基本包帯法(環行帯、螺旋帯、蛇行帯、折転帯)☆	第22週目 冠名包帯法(ヴェルポー包帯①)☆	第5週目 基本包帯法(亀甲帯、麦穂帯)☆	第23週目 冠名包帯法(ヴェルポー包帯②)☆	第6週目 固定の目的/範囲/肢位	第24週目 冠名包帯法(ジュール包帯①)☆	第7週目 部位別包帯法(足関節部①)☆	第25週目 冠名包帯法(ジュール包帯②)☆	第8週目 部位別包帯法(足関節部②)☆	第26週目 固定材料の種類と特性	第9週目 部位別包帯法(手関節部、手指部①)☆	第27週目 ギプス固定の実際	第10週目 部位別包帯法(手関節部、手指部②)☆	第28週目 固定材料の作製(厚紙副子①)	第11週目 部位別包帯法(肩部①)☆	第29週目 固定材料の作製(厚紙副子②)	第12週目 部位別包帯法(肩部②)☆	第30週目 固定材料の作製(クラーメル副子)☆	第13週目 部位別包帯法(肩部③)☆	第31週目 固定材料の作製(吸水硬化性キャスト材①)	第14週目 部位別包帯法(膝関節部)☆	第32週目 固定材料の作製(吸水硬化性キャスト材②)	第15週目 絆創膏固定(足関節捻挫①)☆	第33週目 絆創膏固定(肘関節MCL損傷)	第16週目 絆創膏固定(足関節捻挫②)☆	第34週目 絆創膏固定(腓腹筋肉ばなれ)	第17週目 前期期末試験(筆記)	第35週目 後期期末試験(筆記)	第18週目 三角巾の使い方	第36週目 晒包帯
第1週目 この授業について/包帯固定を考える①	第19週目 冠名包帯法(デソー包帯①)☆																																													
第2週目 包帯固定を考える②	第20週目 冠名包帯法(デソー包帯②)☆																																													
第3週目 巻軸帯の基礎	第21週目 冠名包帯法(デソー包帯③)☆																																													
第4週目 基本包帯法(環行帯、螺旋帯、蛇行帯、折転帯)☆	第22週目 冠名包帯法(ヴェルポー包帯①)☆																																													
第5週目 基本包帯法(亀甲帯、麦穂帯)☆	第23週目 冠名包帯法(ヴェルポー包帯②)☆																																													
第6週目 固定の目的/範囲/肢位	第24週目 冠名包帯法(ジュール包帯①)☆																																													
第7週目 部位別包帯法(足関節部①)☆	第25週目 冠名包帯法(ジュール包帯②)☆																																													
第8週目 部位別包帯法(足関節部②)☆	第26週目 固定材料の種類と特性																																													
第9週目 部位別包帯法(手関節部、手指部①)☆	第27週目 ギプス固定の実際																																													
第10週目 部位別包帯法(手関節部、手指部②)☆	第28週目 固定材料の作製(厚紙副子①)																																													
第11週目 部位別包帯法(肩部①)☆	第29週目 固定材料の作製(厚紙副子②)																																													
第12週目 部位別包帯法(肩部②)☆	第30週目 固定材料の作製(クラーメル副子)☆																																													
第13週目 部位別包帯法(肩部③)☆	第31週目 固定材料の作製(吸水硬化性キャスト材①)																																													
第14週目 部位別包帯法(膝関節部)☆	第32週目 固定材料の作製(吸水硬化性キャスト材②)																																													
第15週目 絆創膏固定(足関節捻挫①)☆	第33週目 絆創膏固定(肘関節MCL損傷)																																													
第16週目 絆創膏固定(足関節捻挫②)☆	第34週目 絆創膏固定(腓腹筋肉ばなれ)																																													
第17週目 前期期末試験(筆記)	第35週目 後期期末試験(筆記)																																													
第18週目 三角巾の使い方	第36週目 晒包帯																																													
教科書・参考書等	(社)全国柔道整復学校協会監修『包帯固定学(改訂第2版)』 医歯薬出版 ※筆記用具持参																																													
成績評価の方法	前期 : 実技テスト70%(再評価制度あり)／期末筆記試験30% 後期 : 実技テスト70%(再評価制度あり)／期末筆記試験30% ※実習中の授業態度によっては一定の基準で減点評価となる場合がある。 ※前期／後期とも再試験は「実技試験」にて実施する。 ※通年で、120/200点以上を取得すれば単位を認定する。																																													
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師専科教員資格 接骨院勤務:5年、整形外科クリニック勤務:2年																																													

授業科目名	柔道整復基礎実技Ⅱ			授業形態	実習	教員名	古小高 朗浩																																							
科目区分	専門分野	単位数	2 単位	時間数	72 時間	期間	通年	36 回	対象学年	1 年生																																				
授業概要	患者のもつ肉体的・精神的な異常を的確に把握、評価し、最適な治療法を選択して実行するための根拠となる情報を得るための手段として、正しい医療面接の方法や、身体評価法を学習していく。																																													
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 医療面接の方法を習得する。 2) 各種評価法の基本的手順を習得する。 3) 施術録の扱いと記載の仕方を習得する。 																																													
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 診察の意義と進め方</td> <td>第19週目 関節可動域測定</td> </tr> <tr> <td>第2週目 身体評価の流れ/評価の時期による分類</td> <td>第20週目 関節可動域測定</td> </tr> <tr> <td>第3週目 受付の流れ/受付表の記入の仕方</td> <td>第21週目 関節可動域測定</td> </tr> <tr> <td>第4週目 医療面接とは/問診表の記入の仕方</td> <td>第22週目 関節可動域測定</td> </tr> <tr> <td>第5週目 医療面接基礎 演習</td> <td>第23週目 関節可動域測定</td> </tr> <tr> <td>第6週目 医療面接基礎 演習</td> <td>第24週目 関節可動域測定 実技試験</td> </tr> <tr> <td>第7週目 医療面接基礎 演習</td> <td>第25週目 関節可動域測定 実技試験</td> </tr> <tr> <td>第8週目 医療面接基礎 演習</td> <td>第26週目 徒手筋力検査法</td> </tr> <tr> <td>第9週目 医療面接基礎 演習</td> <td>第27週目 徒手筋力検査法</td> </tr> <tr> <td>第10週目 医療面接基礎 実技試験</td> <td>第28週目 徒手筋力検査法</td> </tr> <tr> <td>第11週目 医療面接基礎 実技試験</td> <td>第29週目 徒手筋力検査法</td> </tr> <tr> <td>第12週目 上・下肢長計測 / 上腕、大腿の周径計測</td> <td>第30週目 徒手筋力検査法</td> </tr> <tr> <td>第13週目 上・下肢長計測 / 上腕、大腿の周径計測</td> <td>第31週目 徒手筋力検査法 実技試験</td> </tr> <tr> <td>第14週目 上・下肢長計測 / 上腕、大腿の周径計測 実技試験</td> <td>第32週目 徒手筋力検査法 実技試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 上・下肢長計測 / 上腕、大腿の周径計測 実技試験</td> <td>第33週目 施術録の扱いと記載の仕方</td> </tr> <tr> <td>第16週目 前期総復習</td> <td>第34週目 後期総復習</td> </tr> <tr> <td>第17週目 前期試験</td> <td>第35週目 後期試験</td> </tr> <tr> <td>第18週目 前期試験返却・解説</td> <td>第36週目 後期試験返却・解説</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 授業は座学と実技を行うこととする。 2) 実技授業の際は必ず白衣を着用し、アクセサリー等の装飾品ははずすこと。 3) 身だしなみには十分に注意し、白衣は常に清潔を保つよう努めること。 										第1週目 診察の意義と進め方	第19週目 関節可動域測定	第2週目 身体評価の流れ/評価の時期による分類	第20週目 関節可動域測定	第3週目 受付の流れ/受付表の記入の仕方	第21週目 関節可動域測定	第4週目 医療面接とは/問診表の記入の仕方	第22週目 関節可動域測定	第5週目 医療面接基礎 演習	第23週目 関節可動域測定	第6週目 医療面接基礎 演習	第24週目 関節可動域測定 実技試験	第7週目 医療面接基礎 演習	第25週目 関節可動域測定 実技試験	第8週目 医療面接基礎 演習	第26週目 徒手筋力検査法	第9週目 医療面接基礎 演習	第27週目 徒手筋力検査法	第10週目 医療面接基礎 実技試験	第28週目 徒手筋力検査法	第11週目 医療面接基礎 実技試験	第29週目 徒手筋力検査法	第12週目 上・下肢長計測 / 上腕、大腿の周径計測	第30週目 徒手筋力検査法	第13週目 上・下肢長計測 / 上腕、大腿の周径計測	第31週目 徒手筋力検査法 実技試験	第14週目 上・下肢長計測 / 上腕、大腿の周径計測 実技試験	第32週目 徒手筋力検査法 実技試験	第15週目 上・下肢長計測 / 上腕、大腿の周径計測 実技試験	第33週目 施術録の扱いと記載の仕方	第16週目 前期総復習	第34週目 後期総復習	第17週目 前期試験	第35週目 後期試験	第18週目 前期試験返却・解説	第36週目 後期試験返却・解説
第1週目 診察の意義と進め方	第19週目 関節可動域測定																																													
第2週目 身体評価の流れ/評価の時期による分類	第20週目 関節可動域測定																																													
第3週目 受付の流れ/受付表の記入の仕方	第21週目 関節可動域測定																																													
第4週目 医療面接とは/問診表の記入の仕方	第22週目 関節可動域測定																																													
第5週目 医療面接基礎 演習	第23週目 関節可動域測定																																													
第6週目 医療面接基礎 演習	第24週目 関節可動域測定 実技試験																																													
第7週目 医療面接基礎 演習	第25週目 関節可動域測定 実技試験																																													
第8週目 医療面接基礎 演習	第26週目 徒手筋力検査法																																													
第9週目 医療面接基礎 演習	第27週目 徒手筋力検査法																																													
第10週目 医療面接基礎 実技試験	第28週目 徒手筋力検査法																																													
第11週目 医療面接基礎 実技試験	第29週目 徒手筋力検査法																																													
第12週目 上・下肢長計測 / 上腕、大腿の周径計測	第30週目 徒手筋力検査法																																													
第13週目 上・下肢長計測 / 上腕、大腿の周径計測	第31週目 徒手筋力検査法 実技試験																																													
第14週目 上・下肢長計測 / 上腕、大腿の周径計測 実技試験	第32週目 徒手筋力検査法 実技試験																																													
第15週目 上・下肢長計測 / 上腕、大腿の周径計測 実技試験	第33週目 施術録の扱いと記載の仕方																																													
第16週目 前期総復習	第34週目 後期総復習																																													
第17週目 前期試験	第35週目 後期試験																																													
第18週目 前期試験返却・解説	第36週目 後期試験返却・解説																																													
教科書・参考書等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 柔道整復学・理論編（改定第7版） 2) 授業内で配布するプリント 																																													
成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) 各学期の成績は実技試験ならびに期末試験の成績によって評価する。配点は次の通りとする。 * 実技試験(50点) / 期末試験(50点) 2) 学期ごとの成績は学年末に総合し、最終評定を出す。ただし、最終評定は100点法によって行い、60点以上を合格とする。 3) 実技試験は特別な事情(公欠等)のない限り再試験は行わないため欠席しないよう注意すること。 4) 実技授業への参加が消極的と判断した場合は、1回の授業につき5点を減点する。 例) 実技を行わず見ているだけや、始語の多さが目立つ場合 																																													
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師、柔道整復師専科教員資格																																													

授業科目名	トレーニング科学			授業形態	講義	教員名	大津 正久																																	
科目区分	選択必修科目	単位数	4 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	1 年生																														
授業概要	機能解剖学や運動生理学、身体運動学などの基礎的知識を学習する。 各種トレーニングを実技によって学習する。																																							
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的分野を統合し、身体活動による変化を学習し、現場に活かす。 ・各種トレーニング法を学びストレングストレーナーとしての知識を深める。 																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 トレーニング科学とは</td> <td>第16週目 運動生理学(内分泌系)</td> </tr> <tr> <td>第2週目 体力学とは</td> <td>第17週目 運動生理学(神経系)</td> </tr> <tr> <td>第3週目 機能解剖学(骨、関節、筋)</td> <td>第18週目 運動生理学(神経系)</td> </tr> <tr> <td>第4週目 機能解剖学(骨、関節、筋)</td> <td>第19週目 運動生理学(骨格筋系)</td> </tr> <tr> <td>第5週目 機能解剖学(骨、関節、筋)</td> <td>第20週目 運動生理学(骨格筋系)</td> </tr> <tr> <td>第6週目 機能解剖学(骨、関節、筋)</td> <td>第21週目 運動生理学(骨格筋系)</td> </tr> <tr> <td>第7週目 機能解剖学(骨、関節、筋)</td> <td>第22週目 バイオニクス(てこの作用含む)</td> </tr> <tr> <td>第8週目 機能解剖学(骨、関節、筋)</td> <td>第23週目 バイオニクス(てこの作用含む)</td> </tr> <tr> <td>第9週目 運動生理学(循環器系)</td> <td>第24週目 パワー向上トレーニング</td> </tr> <tr> <td>第10週目 運動生理学(循環器系)</td> <td>第25週目 スピード向上トレーニング</td> </tr> <tr> <td>第11週目 運動生理学(呼吸器系)</td> <td>第26週目 有酸素性持久カトレーニング、無酸素性持久カトレーニング</td> </tr> <tr> <td>第12週目 運動生理学(呼吸器系)</td> <td>第27週目 ウォームアップとクールダウン、柔軟性向上トレーニング(ストレッチ)</td> </tr> <tr> <td>第13週目 運動生理学(エネルギー代謝)</td> <td>第28週目 柔軟性向上トレーニング(ストレッチ)</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期期末試験</td> <td>第29週目 後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 前期期末試験解説</td> <td>第30週目 後期期末試験解説</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について) 板書を中心に進行する。</p>										第1週目 トレーニング科学とは	第16週目 運動生理学(内分泌系)	第2週目 体力学とは	第17週目 運動生理学(神経系)	第3週目 機能解剖学(骨、関節、筋)	第18週目 運動生理学(神経系)	第4週目 機能解剖学(骨、関節、筋)	第19週目 運動生理学(骨格筋系)	第5週目 機能解剖学(骨、関節、筋)	第20週目 運動生理学(骨格筋系)	第6週目 機能解剖学(骨、関節、筋)	第21週目 運動生理学(骨格筋系)	第7週目 機能解剖学(骨、関節、筋)	第22週目 バイオニクス(てこの作用含む)	第8週目 機能解剖学(骨、関節、筋)	第23週目 バイオニクス(てこの作用含む)	第9週目 運動生理学(循環器系)	第24週目 パワー向上トレーニング	第10週目 運動生理学(循環器系)	第25週目 スピード向上トレーニング	第11週目 運動生理学(呼吸器系)	第26週目 有酸素性持久カトレーニング、無酸素性持久カトレーニング	第12週目 運動生理学(呼吸器系)	第27週目 ウォームアップとクールダウン、柔軟性向上トレーニング(ストレッチ)	第13週目 運動生理学(エネルギー代謝)	第28週目 柔軟性向上トレーニング(ストレッチ)	第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験	第15週目 前期期末試験解説	第30週目 後期期末試験解説
第1週目 トレーニング科学とは	第16週目 運動生理学(内分泌系)																																							
第2週目 体力学とは	第17週目 運動生理学(神経系)																																							
第3週目 機能解剖学(骨、関節、筋)	第18週目 運動生理学(神経系)																																							
第4週目 機能解剖学(骨、関節、筋)	第19週目 運動生理学(骨格筋系)																																							
第5週目 機能解剖学(骨、関節、筋)	第20週目 運動生理学(骨格筋系)																																							
第6週目 機能解剖学(骨、関節、筋)	第21週目 運動生理学(骨格筋系)																																							
第7週目 機能解剖学(骨、関節、筋)	第22週目 バイオニクス(てこの作用含む)																																							
第8週目 機能解剖学(骨、関節、筋)	第23週目 バイオニクス(てこの作用含む)																																							
第9週目 運動生理学(循環器系)	第24週目 パワー向上トレーニング																																							
第10週目 運動生理学(循環器系)	第25週目 スピード向上トレーニング																																							
第11週目 運動生理学(呼吸器系)	第26週目 有酸素性持久カトレーニング、無酸素性持久カトレーニング																																							
第12週目 運動生理学(呼吸器系)	第27週目 ウォームアップとクールダウン、柔軟性向上トレーニング(ストレッチ)																																							
第13週目 運動生理学(エネルギー代謝)	第28週目 柔軟性向上トレーニング(ストレッチ)																																							
第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験																																							
第15週目 前期期末試験解説	第30週目 後期期末試験解説																																							
教科書・参考書等																																								
成績評価の方法	期末試験(年2回)、出席状態、授業状態により総合的に判定する。																																							
実践的教育に関する経歴等	①スポーツ系専門学校勤務32年 ②整形外科(運動療法)勤務21年 ③近畿大学講師19年 ④東北大学アメフト部 トレーニングコーチ21年																																							